



慶應義塾大学
システムデザイン・マネジメント学科
第3回 公開講座

新たな時代の新たな物語
エコロジーから「コスモロジー」社会へ

日時: 2013年11月29日(金)19:00~20:30
場所: 慶應義塾大学 日吉キャンパス

講師 木戸 寛孝

1

我々はどこから来たのか？
我々は何者か？
我々はどこに行くのか？



ポール・ゴーギャン フランス 1897
油彩 カンヴァス 139.1cm × 374.6cm
Tompkins Collection 36.270

2

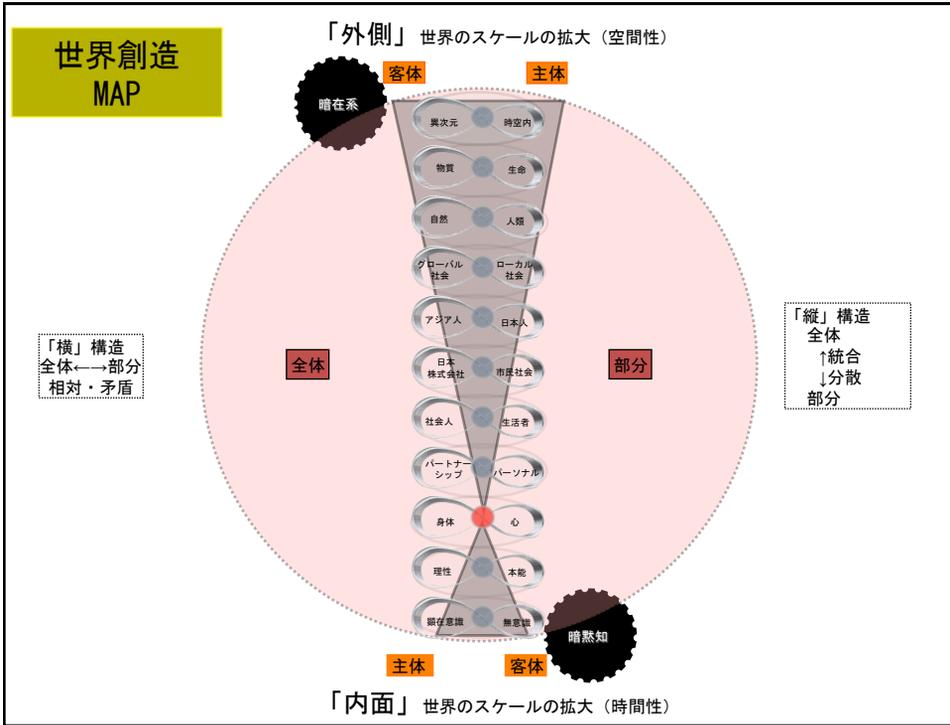
基本的なビジネススキーム

ビジョンメイク (思考)		行動手法		他者の評価
<p>課題発見 → コンセプト化 → ビジネスモデル → マネジメント → 成果</p> <p>私 (独創的) → 私たち (社会的)</p>				
創造力	物語力	合理的	効率的	客観的
属人的		専門的	汎用的	
個人の能力に拠って立っている		メソッドとして体系化されている		
メイクセンス ・芸術的直感 ・哲学的直感	「なぜ」の文脈化 ・問題の相対化 ・問題の社会化	仕組みづくり ・マーケティング ・戦略	マネジメント ・プロマネ ・PL管理	評価
自覚の醸成 (オリジナルな思考からの出発)		意義・大義の醸成 (自分の思考が社会的な意味を持つ)		
自発的モチベーションの醸成と深く関与		利害のモチベーションが人事・給与によって支配		
自発的・社会的		組織的・経営的		

3

力の源は、
 “人間の持つイマジネーション”
 それ故に、
 私たちが直面している危機の本質も、
固定観念に縛られた
「古い世界観」に原因がある。
 意識の次元をシフトさせ、
 無意識のうちにセットされている
既存の思考様式の「境界」を越えていく。

4



17世紀

人類史における
「近代」世界の誕生

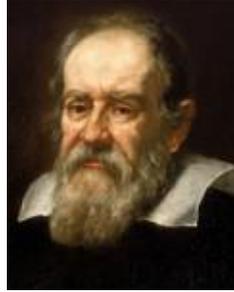
天動説から「地動説」へ

古代ギリシャの学者プトレマイオス＝「天動説」を提唱



コペルニクス
(ポーランド、1473～1543)

天動説に疑問を持ち、「天体の回転」(1530年、出版は1543年)で、地球は太陽のまわりを回る一つの惑星であるという考え、すなわち**地動説**を唱えた。



ガリレオ・ガリレイ

(イタリア 1564～1642)

1610年、オランダで1609年に発明された**望遠鏡**を自作。星々が動いているのではなく地球が動いているのだとしてガリレイはコペルニクスの地動説を支持。1632年、ガリレイは**異端尋問所**に召還される。

7

「科学主義」という思想

「科学的論法」の誕生 → 「科学技術」の進展



ルネ・デカルト
数式によって証明する
「**数学**」という手法

17世紀の
二人の天才
教会権威 → アカデミア



フランシス・ベーコン
再現性を担保しようとする
「**実験**」という手法。



18世紀に「**産業革命**」を引き起こす原動力！

8

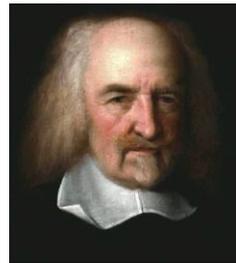
「主権国家」という装置の誕生

主権の委譲

中世は「神」と「教会」 → 近代は「人」と「国家」



ナポレオン
「君主主権」
皇帝の絶対性



ホッブス
「レヴァイアサン」
国家の絶対性



「議会制民主主義」を引き起こす原動力！

近代以降における社会問題

世界を、社会を、人間を、己を、
切り刻んで「分解」してしまった。

“分かる”とは「分ける」こと。

地球	…	自然	と	人間社会
国際	…	先進国	と	途上国
国家	…	都市	と	郊外
人間	…	私	と	あなた
己	…	心	と	体

20世紀

人類史における 「エコロジー」世界 (惑星意識) の誕生

11

人類の月面着陸 青い地球「惑星意識」の覚醒

1969年7月20日 **アポロ11号**が月の「静かの海」に着陸した。



月への第一歩を刻んだ**ニール・アームストロング船長**の言葉
"That's one small step for a man, one giant leap for mankind."
(これは一人の人間には小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ。)

12

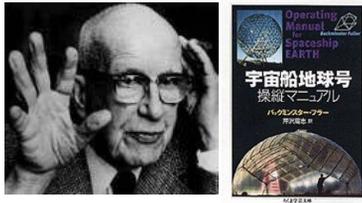
1970年のエコロジー思想

バックミンスター・フラー博士

1970年

『宇宙船地球号』

というコンセプト



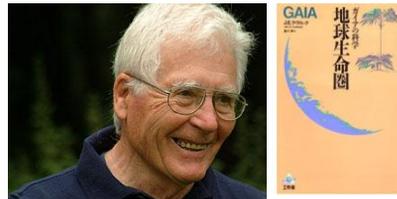
地球は絶妙にデザインされた、ひとつの進化する宇宙船。そして、私たちはこの宇宙船の乗組員だ。

ジェームズ・ラブロック博士

1972年

『ガイア仮説』

というコンセプト



地球と生物が相互に関係し合い環境を作り上げていることを、ある種の「巨大な生命体」と見なす仮説。

13

1970年 ローマクラブ設立

<http://www.clubofrome.org/>



ローマクラブは、オリベッティ社の副社長で石油王としても知られるアウレリオ・ベツチエイ博士が、資源・人口・軍備拡張・経済・環境破壊などの全地球的な問題対処するために設立した民間のシンクタンクで、**世界各国の科学者・経済人・教育者・各種分野の学識経験者など100人**からなる。



『成長の限界』 (1972年)

現在のままで人口増加や環境破壊が続けば、資源の枯渇や環境の悪化によって100年以内に人類の成長は限界に達すると警鐘を鳴らしており、破局を回避するためには、地球が無制限であるということを前提とした従来の経済のあり方を見直し、世界的な均衡を目指す必要があると論じている。



『限界を超えて』 (1992年)

資源採取や環境汚染の行き過ぎによって21世紀前半に破局が訪れるという、更に悪化したシナリオが提示されている。



『2052』 (2012年)

かつて世界の人々に重大な警告を与えた『成長の限界』レポートを受け継ぎ、21世紀の警告書としてあらためて問い直したもの。

14

近代社会から

→ **エコロジー社会**へ(現代の潮流)

自然は **機械の部品** のようにバラバラに断片化され → **分析**
自然全体が統合的に創り出しているリズムやパターン、周期性が見失われている。

自然は私たちと分離したかたちで「外部」に存在するのではない。
私たち自身が自然そのものであり、
自然環境と密接に結びついている。

社会というものを『**人間**』だけで完結するのではなく、
あらゆる『**生命**』との**結びつき**の中で捉え直し、
新たな文明をデザインしていくべき。

→ これが「**21世紀の文明開化**」?

15

22世紀を展望し、新たな文明をデザインするにあたり

1970年代の思考パラダイムを
本当にそのまま当てればよいのだろうか？

21世紀に地球サイズ大の規模で起こるであろう
『**世界維新の物語**』を創造するためには
さらに**進化した思考パラダイム**が求められているはず。

それは、どのような切り口から起こるのだろうか……。

16

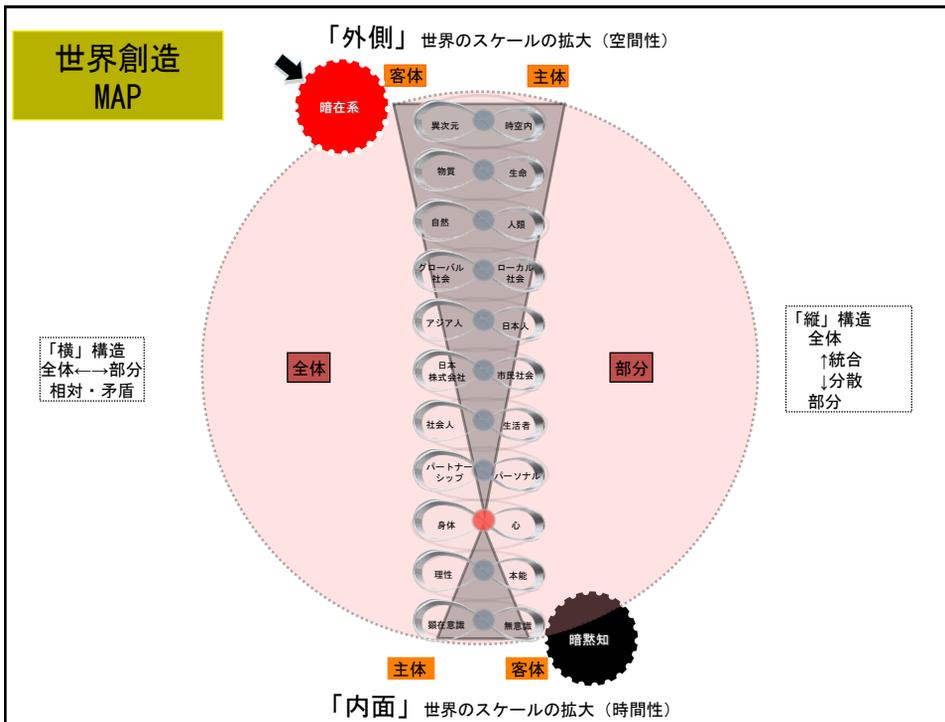
人類の世界観のセオリーが
パラダイムシフトするような出来事が
21世紀に今また起きようとしている！

近代の夜明け… 天動説から「地動説」
世界大戦後の社会… アポロ13号「月面着陸」

次は、なにか…？

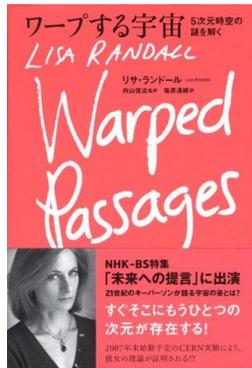
21世紀は、
「暗在系」「暗黙知」との遭遇

17



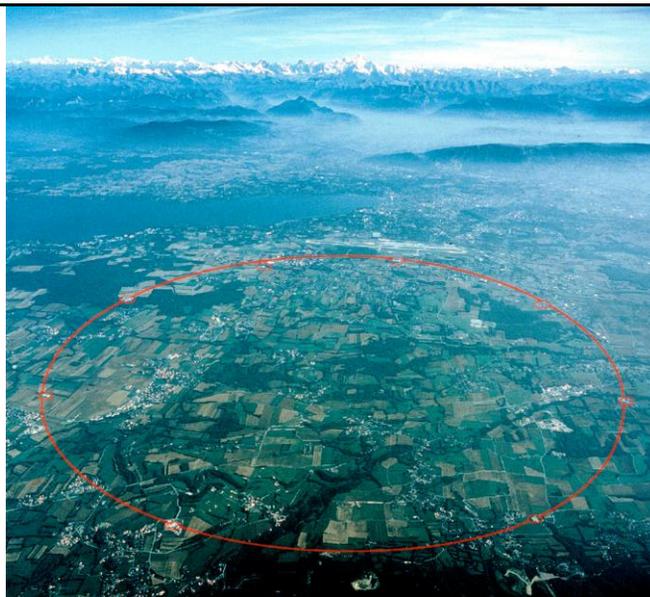
欧州合同素粒子原子核研究機構（CERN）

欧州合同素粒子原子核研究機構（CERN）は、総工費5000億円をかけて超高エネルギーの素粒子衝突型加速器を建設。この加速器はラージ・ハドロン・コライダー（LHC）と呼ばれ、実験結果次第では、ランドール博士の提唱した**5次元世界の存在が証明される**ことになると期待された。



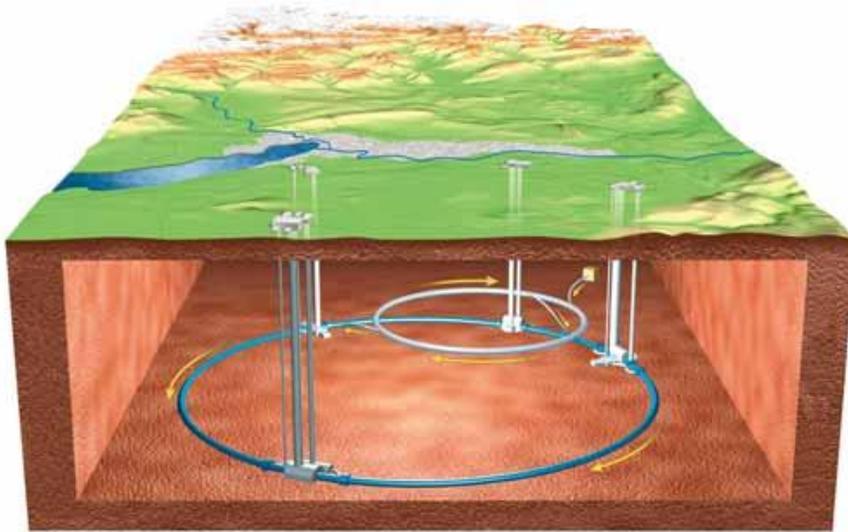
米「タイム」誌は、2007年の「世界で最も影響力のある100人」の一人に、ハーバード大学の理論物理学者リサ・ランドール博士(44)を選んだ。

19



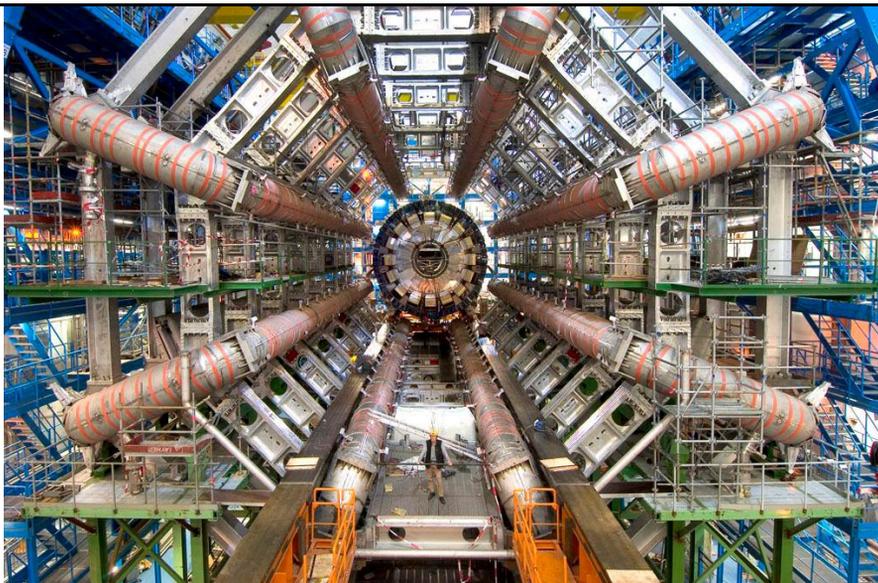
地中には、円周27kmのトンネルが掘られ、そこに**水素の原子核**をつくる陽子を複数、超高速で走らせて衝突させる。実験では、この飛び散った粒子の動きを観測する。

20

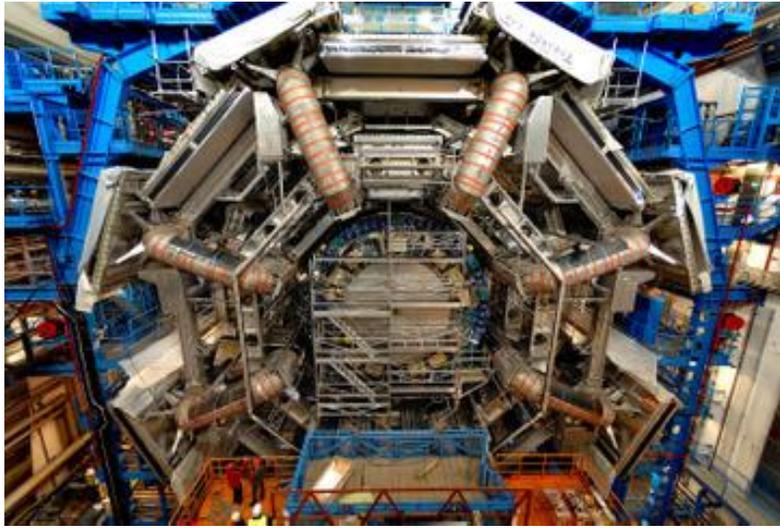


ヒッグス粒子の発見 → 2013年ノーベル物理学賞

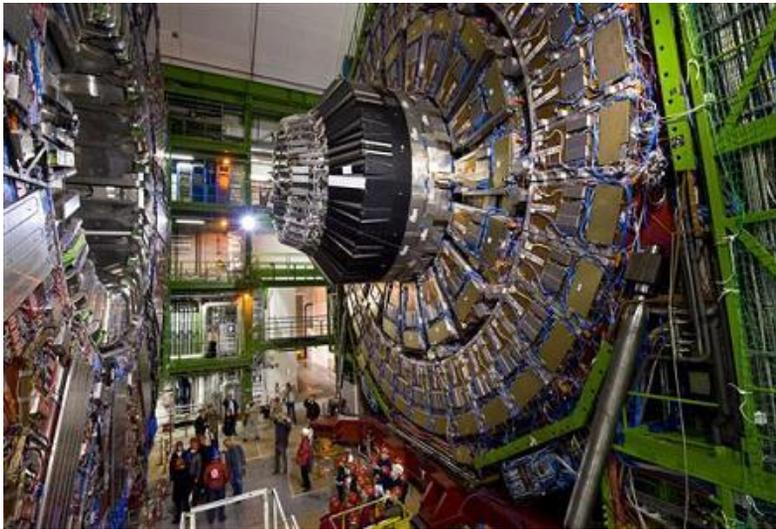
21



衝突で粉々になった粒子の破片は、ある確率で姿を消すことが予想されていて、本来消えるはずのない粒子が姿を消すことが確認された場合、**粒子が姿を消した先が見えない5次元時空である**と考えられる。



23



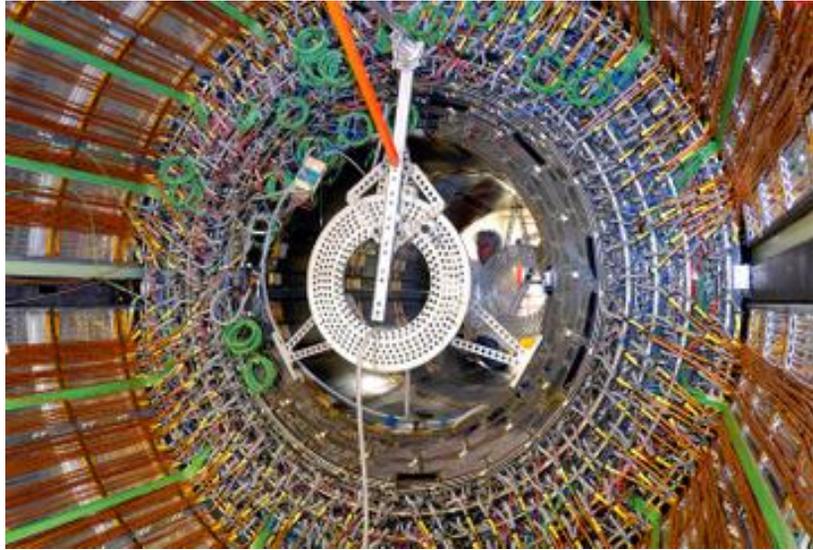
24



25



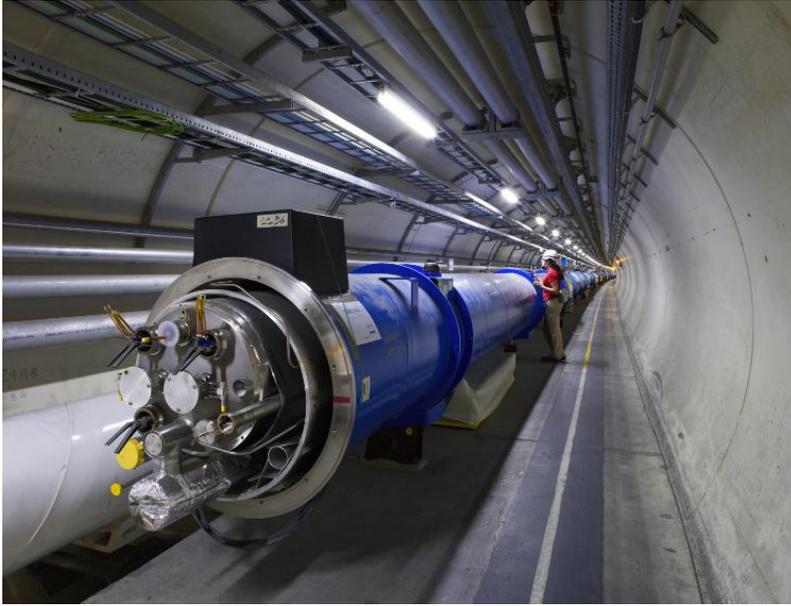
26



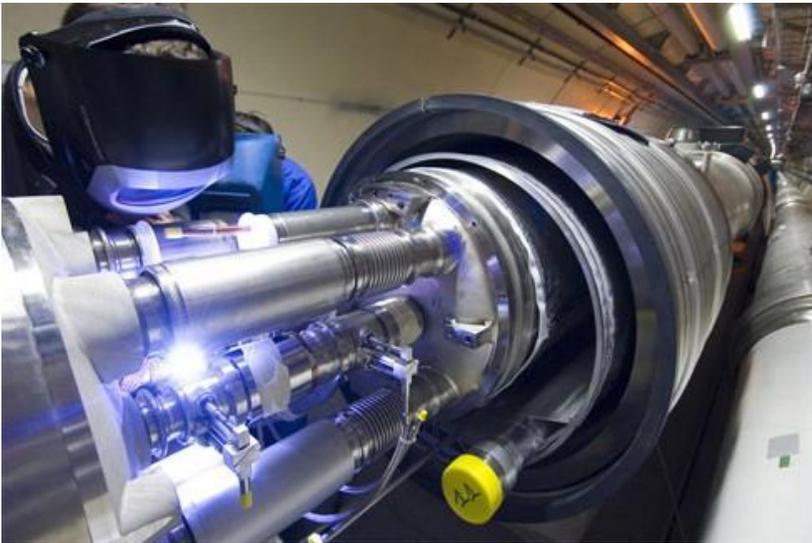
27



28



29



30

プロジェクトX

(米国フェルミ国立加速器研究所)



米フェルミ国立加速器研究所が運用するテバトロンは、イリノイの大草原の約6.4キロ地下で25年間にわたり「ビッグバン」の再現実験を行ってきたが、LHC(SERN)の建設により時代遅れとなり、新たに世界で最も強力な陽子加速器を建設する。

31

ILC (国際リニアコライダー)



リニアコライダーとは、**世界史上最大最高**の高エネルギー**電子**加速器のこと。地下に埋められた約**40km**に及ぶ**直線**トンネル内に構築する超精密システム。

2つのビームを加速して正面衝突させる加速器のこと。**ビームとビームを衝突させる**のは技術的に難しいが、1つのビームを加速して静止した標的に当てる場合に比べて、高い衝突エネルギーが得られるという利点がある。リニアコライダーでは数十km離れた地点から2つのビームを加速して衝突させる。

32

レーザー核融合 NIF

(ローレンス・リバモア国立研究所)



米カリフォルニア州ローレンス・リバモア国立研究所で2009年5月29日、世界最大のレーザー核融合施設「国立点火施設 (National Ignition Facility)」の竣工式が行われ、192本のレーザー光線を1点に集束させて、超新星やブラックホール、巨大惑星の内部の状況を再現する。

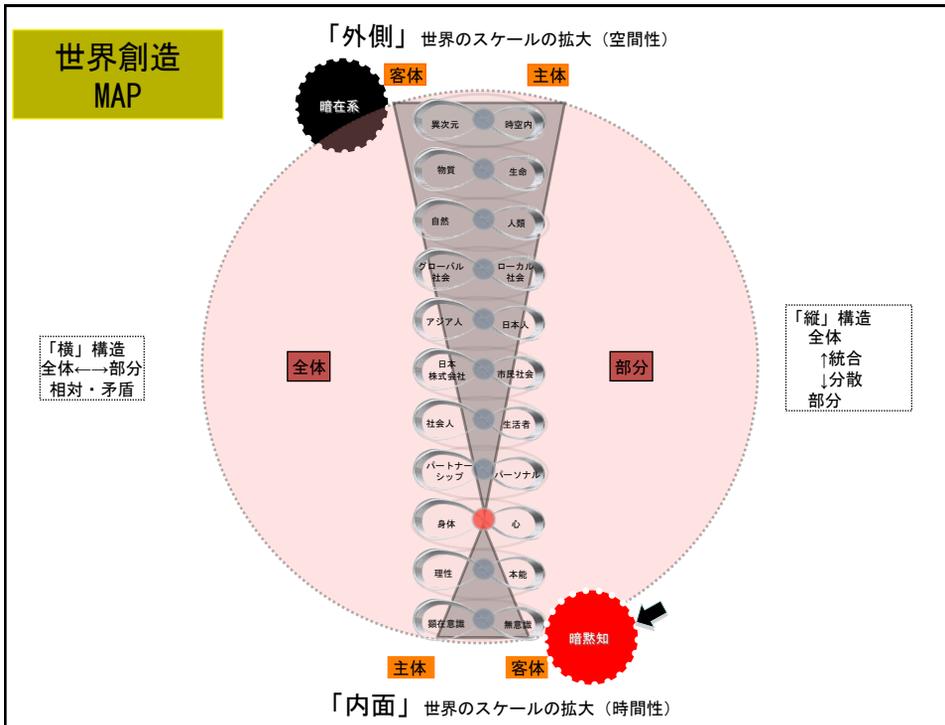
33

「異次元(暗在系)との遭遇」は
人類にどのような新たな世界観を
生み出す契機になるのだろうか？

天動説から地動説 → 科学主義(唯物意識)
アポロ13号月面着陸 → エコロジー思想(惑星意識)

1. **トランスパーソナルな人間観(暗黙知との遭遇)**
2. **心と体、精神と物質が融合する科学と哲学
(唯物的でも唯心的でもない世界観)**

34



トランスペアソナルな人間観 「自分」とは何か？

「自」の意味の二義性

みずから … 己のこと = 自身
おのずから … 己を超えて働く力 = 自然

全ての人間意識に共通の基盤を与えているような
「己(独自・個別性)」を超えた
= 「一体性(共同性)」を担保するような領域が
自分の内側に存在するのだろうか？

トランスパーソナルな人間観 意識の階層性

顕在意識 . . . 理性の領域 (デカルト)  自我

----- (「**自覚**」に裏打ちされている)

深層意識 . . . 個人的な無意識 (フロイト)  ウマ

----- **自我の臨界点** ----- (「**経験**」に裏打

る)

集合的な無意識 (ユング) イマージュ (象徴・元型

)

----- (「**直感**」に裏打ちされている。階層を示す

----- (「**ロゴス**」に裏打ちされている) **ロゴス**的コスモロジー (コトマ

マ)

トランスパーソナルな人間観 「集合的な無意識」とは？

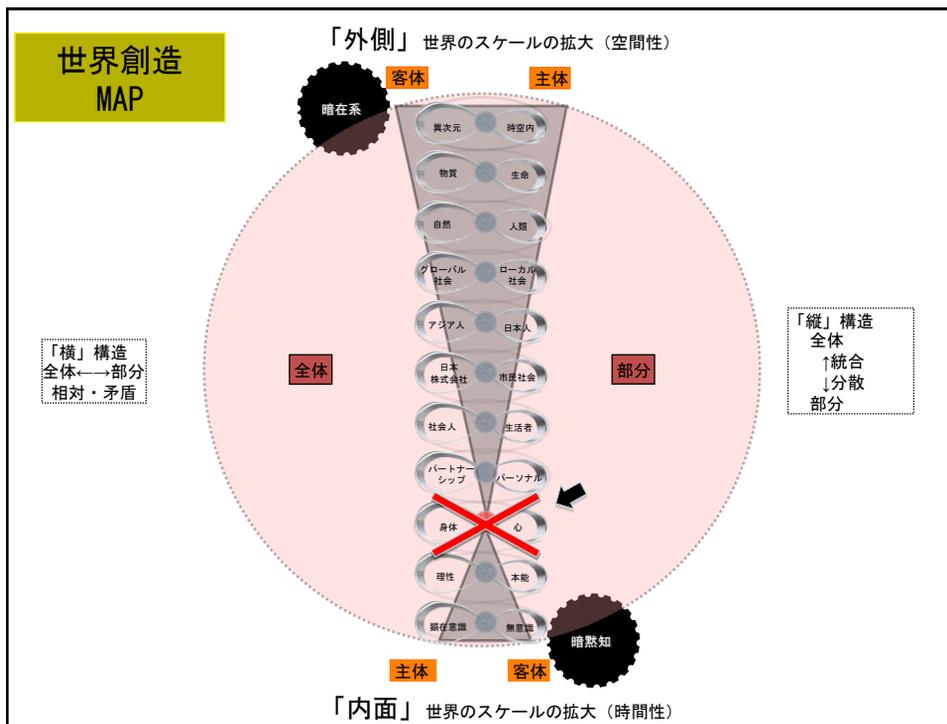
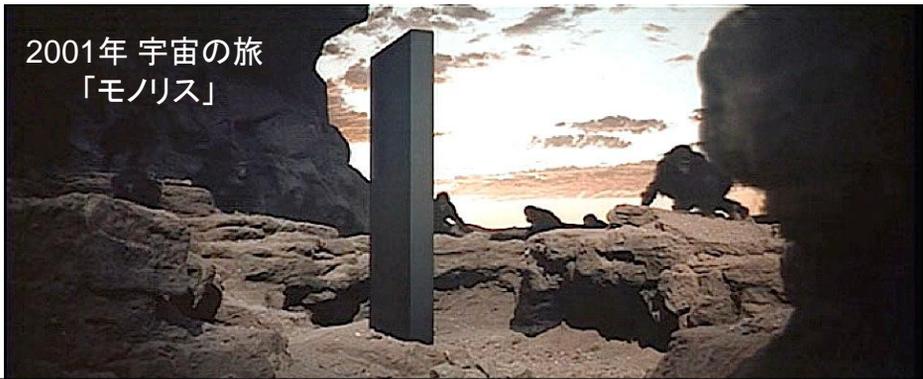
集合無意識場には
心の遺伝子情報のようなものがあり、
物語のパターンやイメージを生み出す力が
メモライズされているのではないか。
それが様々な民族が同じようなビジョンや「神話」を
生み出す原因になっているのではないか。

生命の樹
と
知恵の樹



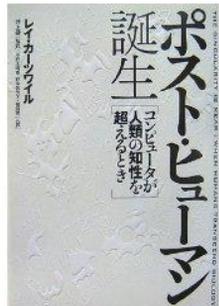
トランスパーソナルな人間観 「集合的な無意識」とは？

人間には
精神世界における本能
というものがあるのか。



ポスト・ヒューマンという思想

レイ・カーツワイル 「技術的特異点」



未来研究において、人類の技術開発の歴史から推測して得られる未来の科学技術の進展の速度が、人類の生物学的限界を超えて『意識を解放する』ことで加速されると予言した。この意識の解放は、人間の脳を直接コンピュータネットワークに接続することで計算能力を高めることだけで実現するのではない。それ以上にポストヒューマンやAI（人工知能）の形成する文化が、現在の人類には理解できないものへと加速して変貌していくのである。

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

脳コンピュータ・インターフェース



脳とコンピュータを直結させ、あらゆる機械を瞬時に動かそうとする技術、それが脳コンピュータ・インターフェース。

42

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

NHKスペシャル
「サイボーグ技術が人類を変える」

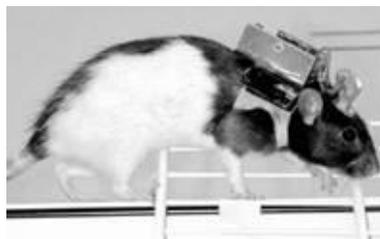


2005/12/03(土) ~ 2006/01/05(木)

43

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

〈ねずみ〉 ロボラット

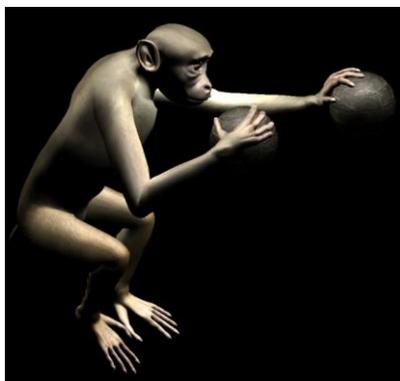


ネズミの脳には外からの指令を送り込む電極が埋め込まれている。
この電極に無線で信号を送り、**指示通りに動く**と**快楽中枢を刺激する**。それを繰り返すことで、指示通りに動くようになる。

44

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

〈サル〉 脳(意識)とすべての機械が直結する



ピッツバーグ大学では、サルの脳から取り出した信号だけでロボットの腕を動かす実験に成功。サルの脳には100本もの電極が埋め込まれ、サルの脳はコンピュータに合わせて活動し始める。サルは**考えるだけ**でロボットの腕を上下左右に自在に動かし、餌をつかめるようになる。10年以上のサルによる実験を経て、**アメリカ政府はついに人間での使用を2004年に初めて認めた。**

45

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

〈ヒト〉 脳(意識)とすべての機械が直結する



マシュー・ネーゲルさん(当時25歳)。頸椎損傷で四肢マヒ。脳内の腕を動かす部位に電極を刺し頭部のコネクターを通して外に信号が送り出される。ネーゲルさんの脳は発達したと見られ、今ではロボットの腕を動かしてキーボードを操作しようとするのではなく、**コンピュータのカーソルを動かそうと考えるだけで**ディスプレイ上に線を引くことができる。ネーゲルさんは脳からの信号でテレビのスイッチを入れ、チャンネルを変えていく。この技術を使えば、**コンピュータのネットワークに接続した機械は、世界中どこにあって**考えただけで動かせることになる。****

46

心と体、精神と物質が融合する科学観 神経工学の最前線

脳(意識)とすべての機械が直結する



「外部情報」と「内部記憶」



↓
アニメ「攻殻機動隊」の世界は、
すでに始まっているのか？

47

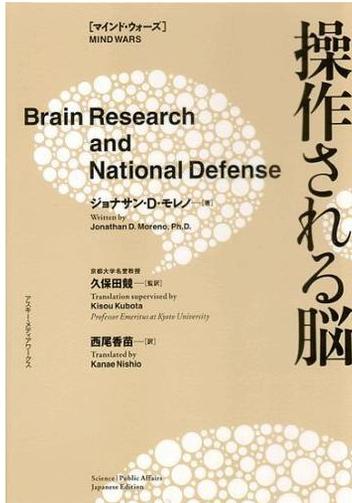
脳波で動く車いす トヨタと理研開発 (2009年6月29日)



トヨタ自動車は29日、理化学研究所などと共同で、頭の中でイメージするだけで脳波を感知して動く電動車いすを開発したと発表した。頭に5つの電極を装着し、自分の右手を動かすイメージを浮かべると、脳波の振幅の変化をセンサーが読み取り、パソコンが車いすに指示して右方向へ旋回。同様に左手を動かすイメージを浮かべれば左方向に旋回する。また、両足を動かすイメージを浮かべれば、前方に進むようにした。

48

21世紀の軍事パワー 兵器から「兵士」



Defense Advanced
Research Projects Agency

米国国防総省高等研究計画局

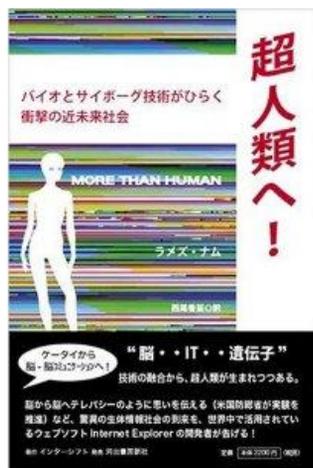
20世紀は、「軍産複合体」といって、軍と産業が結びつき、最強の「兵器」(モノ)をつくり出すことを競ったが、21世紀は、「軍学複合体」によって、大学を中心とした研究機関が軍と結びつき、最強の「兵士」(人間、生命体)をつくり出そうとしている。

ジョナサン・D・モレノ

ヴァージニア大学生命医学倫理センター長、ハワード・ヒューズ医療研究顧問を務め、二つの大統領倫理委員会の上級スタッフでもある。

49

「トランス・ヒューマン」という思想



ラメズ・ナム

科学技術者、エジプト系アメリカ人。マイクロソフトのInternet ExplorerとOutlookの開発者。

★ 脳から脳へテレパシーのように思い

(イメージ・音声・触感などを伝える)

→米・国防総省DARPAが巨額の費用を投じ、実験を推進中。インターネットがDARPAの前身ARPAから生まれたように、この画期的な

「**脳-脳コミュニケーション(脳コンピュータ直結インターフェース)**」技術も、やがて民間に広まっていくだろう。

(=ワールド・ワイド・マインドの実現)。

★ 記憶力を飛躍的にUPさせる

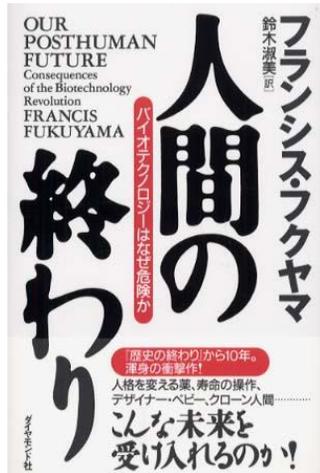
→記憶力を5倍にする動物実験が成功。記憶力に関わる**脳内CREBを増やす薬**も開発中。アルツハイマーなどの治療にも有効。

★ 脳内シアター

→目の見えない人の視力を回復する**人工視覚装置(デジタルズーム機能付き)**がすでに実用化。この装置は肉眼では見えない赤外線・X線などをとらえることも可能。また、脳内にダイレクトに映像を投射する脳内シアターに 응용可能。

50

「人間の終わり」という思想



フランシス・フクヤマ

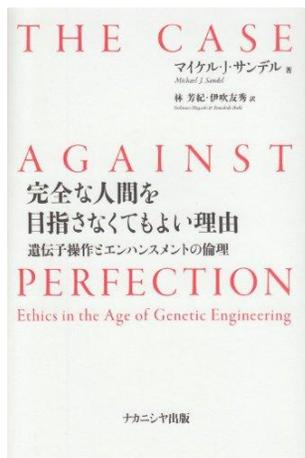
ランド研究所研究員、アメリカ国務省政策企画局スタッフ、現在ジョージア・ホプキンス大学の政治経済学教授。

トランスヒューマニストの目指すゴールに対して、懸念を表明。

もしバイオテクノロジーが遺伝子や神経科学など、何らかの手段で、私たちよりもはるかに高い能力をもつ存在を作り出すのに成功してしまったら、政治的な平等が脅かされる。人間の本質的な性質をいじりまわすことで、**人間性の普遍的な核心**が変化し、かつそれとともに政治体系の中では全ての人間が平等だという考えの**理性的な基礎も変化する**。

51

「完全な人間を目指さなくてもよい理由」



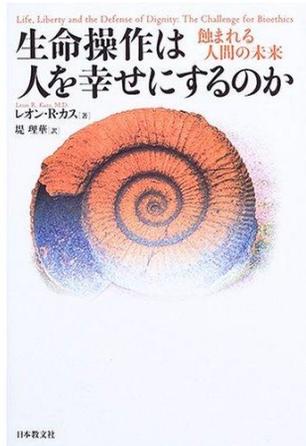
マイケル・サンデル
ハーバード大学教授

エンハンスメントや遺伝子操作によって脅かされる人間性の一側面は、「自分自身のために、**自らの努力を通じて**自由に行為する能力」や「自らの行為や**自分のあり方に関して責任を持つのは自分に他ならない**」と考える姿勢である。

身体能力や認知能力の改良など、遺伝子学上の新たな知識がわれわれ**人間の本性の操作**を可能にするかもしれない。エンハンスメントの倫理に取り組むには、現在社会ではほとんど見失われてしまった問題、すなわち、自然の道徳的地位や、所与の世界に向き合う際の人間の適切な姿勢に関する問題へと立ち返る必要がある。

52

「生命操作は、人を幸せにするのか？」



レオン・R・カス
米大統領生命倫理委員会の委員長

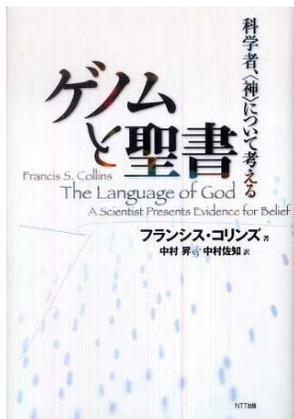
PTSD(心的外傷後ストレス障害)にみられる**つらい記憶(ベトナム戦争)**を、扁桃帯のホルモン分泌促進作用を疎外することと和らげることへの懸念。

恐ろしい事件の記憶を消すことによって、世界はあまりにも居心地の良いものになり、我々は苦しみ、悪行、残酷な行為に対し無関心になってしまうのではないだろうか。

恥ずべき、怒るべき、憎むべき事件の経験や意識を鈍化させることによって、賞賛すべき、感動すべき、愛でべきものに対する反応も鈍らしてしまう危険性が生まれるのではないだろうか。人生の最大の喜びに鈍感になることなく、人生のきわめて辛い悲しみにだけ鈍感になれるものだろうか。

53

意識における 「人間性の普遍的な核心」と何か？



フランシス・コリンズ
米国立ヒトゲノム研究所所長。
国際ヒトゲノム計画の代表。

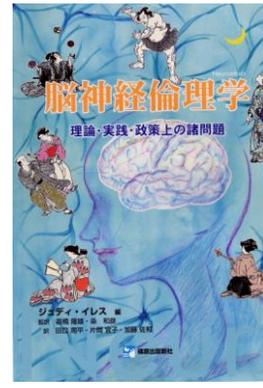
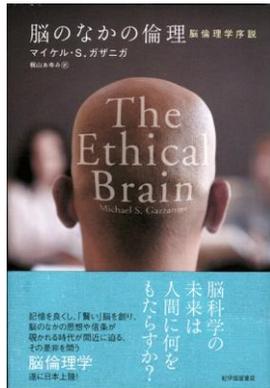
道徳律と「愛」

道徳律は単に進化の圧力の産物だという考えや、利他的行為をダーウィン淘汰に基づいて説明できるものなら、真理としての善も悪も存在しないこと(偶然の産物)となり、そもそも倫理についての議論そのものにも意味がないことになる。

無私無欲の利他愛は、進化論者に大きな難題を突きつける。これは、個々の利己的遺伝子の自己の生存率を高めようとする傾向によっては説明し得ないどころか、まったく見返りが期待できない時でさえ、愛は大きな個人的苦悩、痛み、さらには死を伴うような犠牲を人に強いることがあるにもかかわらず、時に良心とも呼ばれるこの内なる声に耳を傾けながら、**愛を実践しようという動機は、全ての人の中にあることが分かる。**

54

脳神経倫理学



55

21世紀における 科学技術が切り拓く新領域



異次元(暗在系) ... 素粒子加速器
 神経・脳(暗黙知) ... サイボーグ
 AI、人工知能



20世紀に手に入れた倫理観(世界人権宣言
 や国連憲章)だけでは、上記のような新領域に
 おける限度とバランスを構築していくことは難
 しいのではないか。

56

近現代が生み出した倫理観

世界の二つの大戦の反省から、国際社会は国際連合を設立し（1946年）、そこで国連憲章を發布し、世界人権宣言を採択した。

国連憲章

自衛目的以外の**戦争の正統性を否認**し、主権国家であるかぎりは無条件に戦争を行うことはできないとした。 → **領土**を侵略してはいけない



世界人権宣言

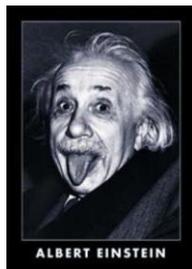
各国が合意したからではなく、それぞれの『**個人**』が持つ権利として人権の普遍性を謳った。



→ 人間**ひとり**の命は、何にもまして大

57

アインシュタインの平和原則



全体の破壊を
さけるという目標は
他のいかなる目標にも
優位しなければならない。

しかし、「**全体**」の意味が
20世紀と21世紀では、
意味が大きく変わってきている！

58

新たな人類の世界観によって 21世紀版「世界維新」は引き起こされるだろうか？

エコロジー & 「コスモロジー」

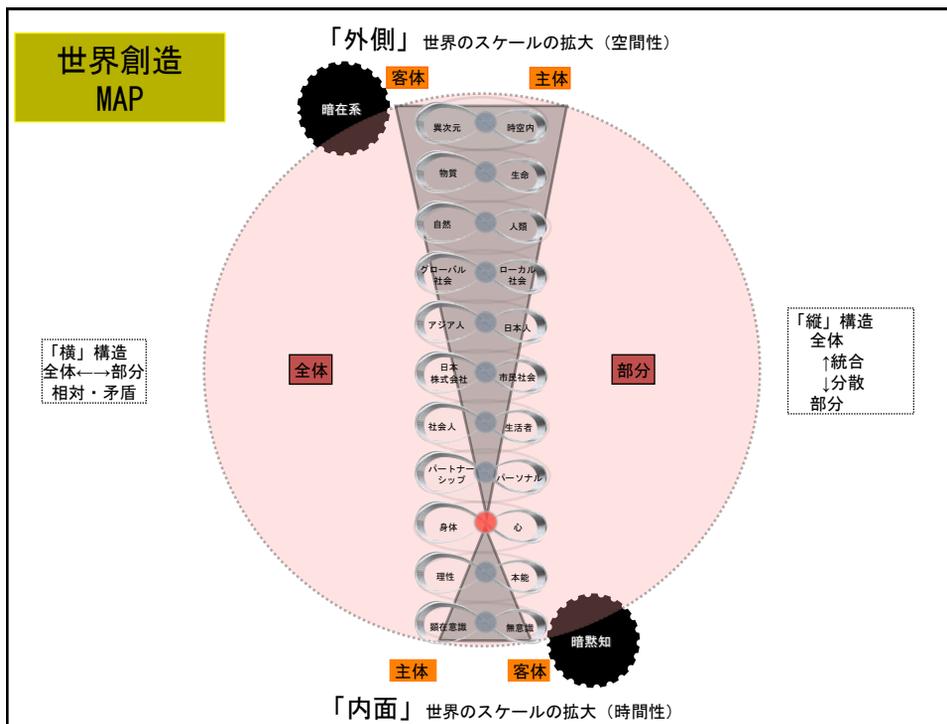
エコロジー(惑星としての地球に生きる人類)

人権 → 生態系システム = 生命権
 国家主権 → 世界法治共同体 = 世界連邦

コスモロジー(時空と自我を超えた宇宙観)

内的宇宙(意識) デカルト主義 → 集合意識を共有する個人(超自我)
 外的宇宙(時空) 相対性理論 → 異次元と時空間のマトリクス

59



暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

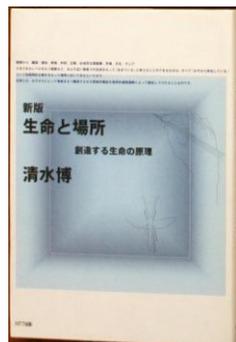
形態形成場仮説
ルパート・シエルドレイク博士



61

暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

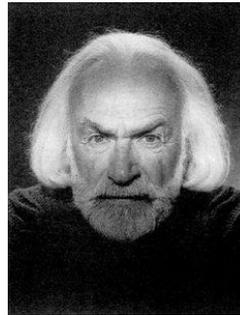
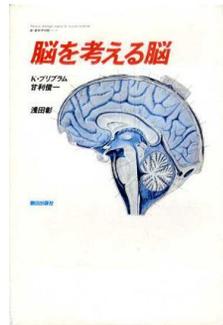
生命と場所
清水博 博士



62

暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

ホログラフィー理論
カール・プリブラム 博士



63

暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

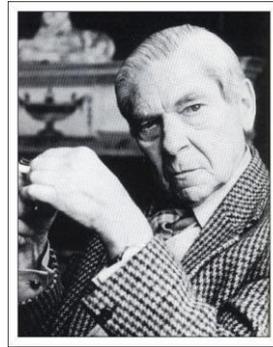
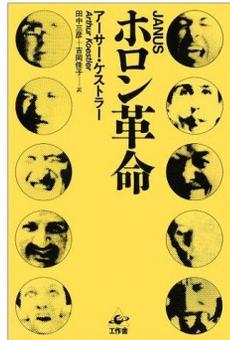
ホログラフィー理論
デイビッド・ボーム 博士



64

暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

ホロン理論
アーサー・ケストラー 博士



65

暗在系と暗黙知は
「ひとつの場」としてつながっているのか？

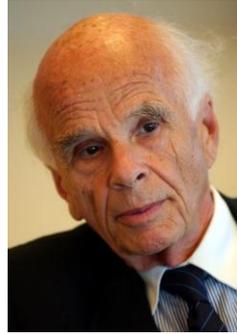
グローバル・ブレイン
ピーター・ラッセル博士



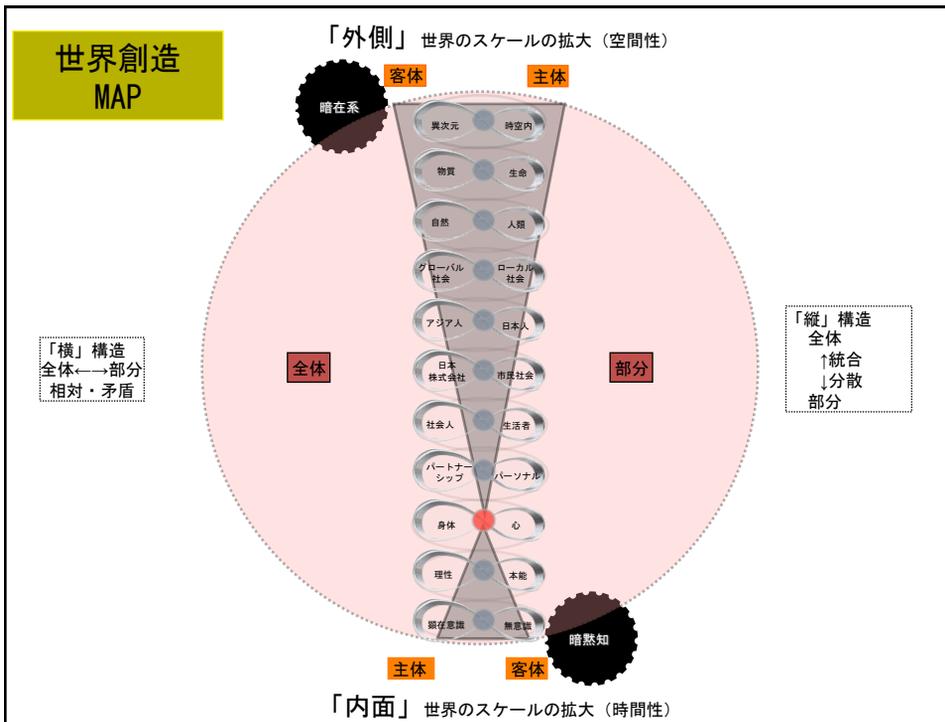
66

暗在系と暗黙知は「ひとつの場」としてつながっているのか？

アカシック・フィールド理論
アーヴィン・ラズロ博士



67



21世紀の「世界維新の物語」

現在の価値観において人間の土台となっている「自我」(精神)や「身体」(物質)というスケールを超え、かつそれを「ひとつ」に結びつけている「**集合意識および生命原理**」の「場」を最先端の科学的・哲学的な見地から捉え、世界人権宣言及び国連憲章をより進化させた「**生命憲章**」を発布するような時代を迎えるのではないか。

→ 21世紀版の「船中八策」および「五箇条の誓文」

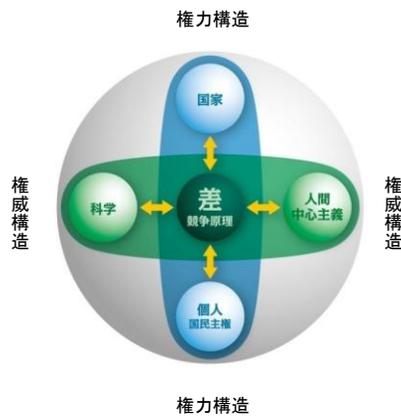
生命の織りなす宇宙的調和を乱さないためにも「**集合意識場**」や「**生命場**」を尊重し、そこには安易な**人為的介入をしてはならない**ことを、国連のような場で立法化し宣言する必要があるのではないか。

こうした世界観や政治哲学が、従来の価値観を更に進化させ生命全体(コスモス)に対して責任を果たそうとする**霊長としての人類の自覚(愛と平和)**を芽生えさせ、世界法治共同体としての『**世界連邦**』を構築していく**原動力**となっていくのではなかろうか。

→ 世界の廃藩置県

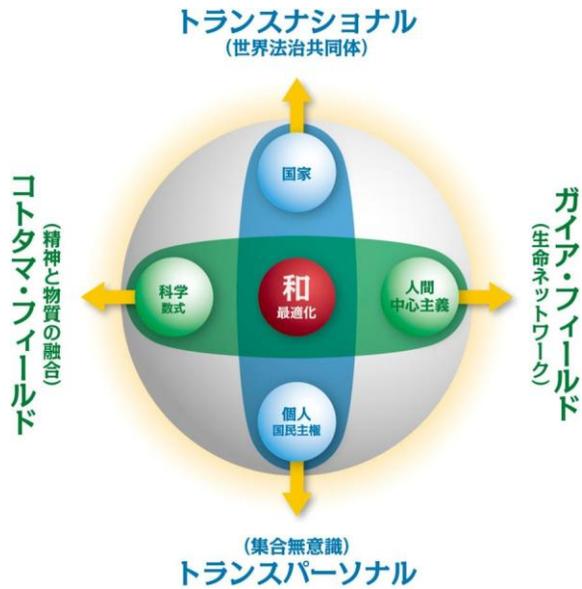
69

17世紀以来の「近代」(modern)の世界観のフレームワーク



70

エコ&コスモロジー社会の世界観フレームワーク



71

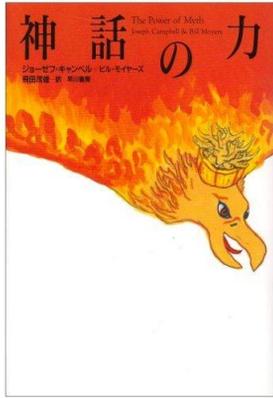
我々はどこから来たのか？
我々は何者か？
我々はどこに行くのか？



ポール・ゴーギャン フランス 1897
油彩 カンヴァス
139.1cm × 374.6cm
Tompkins Collection 36.270

72

「英雄」の隠喩 = 創造的破壊



「神話の力」
ジョーゼフ・キャンベル
(早川書房)

- ・ 伝説的な英雄はたいてい何かを創造した人です、新しい時代の創始者、新しい宗教の教祖、新しい都市の建設者、新しい生活スタイルの発明者など。**なにか新しいものの基礎を築くには、古い世界を出て、新しいものの萌芽を秘めた種子とも言べき思想を探しに行かねばなりません。**
- ・ 境界線を越える、そこから冒険が始まるということです。守られていない、新しい領域へと入っていくのです。**限られた場所、固定された生活習慣、決められたルールなどを後にしなければ、創造性を発揮することは出来ません。**

73

「英雄」の隠喩は何を意味しているのか

- ・ **英雄は自分を守ってくれるはずの社会から抜け出して、オリジナルな経験という暗い森に、炎の世界に入っていくのです。**オリジナルな経験というものはかつて説明されたことのないものだから、**本人が独力で自分の生活を組み立てていく**かない。
- ・ それに耐えられるか否かは、道は二つにひとつしかない。すでに知られている道から離れると、それほど進まないうちにもう非常に困難な状況にぶつかる。そういう**試練に直面する勇氣**、そして、**ほかの人々にも経験してもらうために説明のついている経験分野に新しい可能性の数々を導入する勇氣**。それが英雄の行動です。

74

「新たな物語」が意識の次元をシフトさせる

力の源は、“人間の持つイマジネーション”
それ故に、私たちが直面している危機の本質も、
固定観念に縛られた「古い世界観」に原因がある。

危機回避に向けて意識の次元をシフトさせることが求められており、
近代という思考様式の「境界を越える」こと
をキーワードとして世界維新版・文明開化を起こしていかなければならない。

私たちは今まさに「新しい世界」が生まれ出る歴史的転換期に生きている。

斬新な科学的・哲学的アプローチによって、
精神と物質との間に本質的な繋がりがあることが自覚され、
ばらばらに分断された社会に様々な関係が相互に結びつく「統合されたフィールド（場）」が
人類に自覚されることになるだろう。

人間一人ひとりとは、あらゆる部分と複雑に繋がらう宇宙の一部という
“新たな物語”によって、人間の存在する意味と目的が取り戻され、
「世界維新」という現代の私たち人類の物語が、平和な未来へと人類を導くことを確信する。

75

ご静聴、ありがとうございました。

Hiroataka.kido@gmail.com



(株) umari コンセプター
国際NGO 世界連邦運動協会 常務理事

木戸寛孝

76